

石クリ通信

12月号

漫画はダメ、ゲームは毒

院長 石川 悟

昭和三十年代に週刊の漫画雑誌が出てきて、子供は夢中になっていました。先生や親たちは、漫画ばかり読んでいると勉強に差し支えると言いい、漫画を追放するような社会運動もありました。その後テレビも悪者扱いにされ、最近ではコンピュータゲームが目にも悪いし、依存症になると言われ子どもに全く触らせない親も少なくありません。

なぜ子供は漫画やゲームやアニメに夢中になるのでしょうか。面白いから、と言えはそれで終わりますが、活字が並んでいる書物よりも情報量が非常に多く、刺激的で、直感的に理解できるからだだと思います。

コロナ禍でオンライン授業やリモート会議が普及しました。感染を防ぐため「やむを得ず」インターネットを使って授業をする、というイメージを持っていたが、自分も参加してみると、思った以上の発展性を持っていると感じています。どんなに離れている所でも参加が可能、そして内容の保存（録画）が効くという点です。

学校の授業で、例えば「体のしくみ」という内容を学ぶとすれば、教科書に沿って先生が講義をするのが普通ですが、わかりやすくてアニメや実際の内視鏡画像などを交えた動画を作った方が、理解しやすいし、子どもにとっても興味深いものになるでしょう。

文科省が音頭を取って、学習シリーズの漫画を作ったり、楽しく学べるゲームを提案できたらいいのではないかと思ひます。人材も予算もないので無理、と言われるなら、映像のプロはもちろん、教師や中学・高校の生徒の部活動などで動画やゲームの教材作りを奨励し、文科省が「文科省推薦」のお墨付を与えるといいと思います。優れた作品を表彰する方法もあります。

漫画にしろ、アニメにしろ熱中し過ぎて依存症になるのは問題ですが、使い方を考えれば非常に有力なツールです。そしてインターネットを使えば、いつでもどこでもアクセスできるので、もっと有効活用すべきだと思います。

二〇二〇年十二月に寄せて

看護師 太田 小百合

今年もあと少しで終わりです。皆様はこの一年どのように過ごされましたか？「コロナ禍で大変な一年」というのが、大半の方の思いでしょうか。とりあえず私は、大きな病氣もせず一年を過ごせたことに感謝し、二〇二〇年を終えたいと思います。ありがとうございます。

今年を振り返って

事務 森 多加子

今年は私にとって転機の年となりました。十年近く勤務していたクリニックを退職し、四月から石川クリニックでお世話になることになり、この年齢で新しいことが覚えらるるだろうかととても不安でしたが、院長先生はじめスタッフの皆さんに支えられて、何とか今年を無事に締めくくることが出来そうです。コロナ禍で何かと制限された年でしたが、来年は楽しいことがたくさんありますように。皆さま、良いお年をお迎えください。

豊作でした

看護師 澤田 彰子

大学生になった長男の小学校卒業記念に植えたみかんの樹が6年目にしてはじめて豊作になりました。サイズは大きめのサイズで皮は厚めですが甘みがあり、まあまあ美味しく食べられます。せっかくなので家を離れた息子にも送ってあげました。今年はコロナウイルスの流行で生活様式も一変した一年でしたが、来年は明るいニュースが届けられる一年になればいいなと思います。

一年を振り返って・

事務長 石川 都

今年二〇二〇年はコロナ一色、今もなお第三波到来で気が抜けない日々である。

ただ生物学者福岡伸一によれば、ウイルスは決して人類の敵ではない。時に宿主に病気をもたらすものの、種と種の間の遺伝情報の運搬役として他生物と（人間より）「利他的な共生」をしてきた。また私たちの体にはウイルスを時に許容し時に抑える免疫システムがある。だから新型コロナウイルスも「正しく畏れ」、必要以上に怖がらず、免疫を信じて共存してゆこうと述べる。

今年のわが家は、四月に孫の誠史が生まれ、その初節句を見届けて母秋子が五月に九十九歳で旅立った。コロナ禍により家族葬で送ったが、それゆえ母の一世紀もの人生に思いを馳せるひとときも持てた。

クリニックも九年目に入り、来年は十周年を迎える。春から受付事務に経験豊富な森多加子さんが入ってくれたので、スタッフ交代にありがちな不安も緊張感もなく、非常に心強かった。私自身もコロナから学ぶことが多い一年だった。日頃のうがい手洗いの効果を再確認し、化粧も殆どせず寒がりな私には、マスクは顔が隠れて暖かく都合良かった。三密避けも、ティクアウトの充実でゆっくり家飲みもでき、ゴルフもスルーだと半日で終わり、一日を有効に使えて嬉しかった。もちろんコロナ感染の不安は常にあるが、自分でできる予防をしたら、あとは最悪の事態も覚悟しつつ、毎日を普段通り丁寧に過ごすという（想定外が常の）人生の基本に立ち返れた気がしている。

今年一年お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

令和二年も過ぎて行く 看護助手 柴田 さち子

令和二年もまもなく過ぎて行くこととしています。今年は三月頃から新型コロナウイルス騒ぎで、十二月になってもまだまだ感染者が多く、茨城県でも毎日のように過去最多の人数を更新しています。私たちも手洗い・うがい・マスク・濃厚接触に注意し、自分自身で気をつけて、感染しないようにしよう。

今年もお世話になりました。来年も皆様にとつて良い年でありますように。



写真：あしかがフラワーパーク

2020年も残り1ヶ月

事務 田所 弓佳

今年は誰もが予想していなかったコロナウイルスが流行し毎年行われているイベントがなくなったり県外への外出自粛が続いているいたりして思うように外出ができないうちの1年になりました。またここ最近では感染者数が過去最多を日々更新されていて油断できない状態が続いています。その中で迎える年末年始ですが、感染対策をしっかりとってゆくりと過ごしたいと思っています。来年の今頃は以前のような日常生活が戻っていることを願ひたいと思います。

じーじ似！？

通信・ウェブ担当 石川 香

私は小さい頃から外見や喋り方などがよく母に似ていると言われ育ってきました。性格はどちらかといえば父似、外見が院長に似ていると言われたことはほとんどありません。が、受付に立っていた頃、たまに「お父様によく似てるわね」と言われ「え！？」となりました。全くの赤の他人から見ると、やはり親子は血の繋がりを感ぜられるものでしょうか。

七ヶ月になった息子の写真を先日友人に見せたら「香のお父さんに少し似てるね」と言われ、「えええ！？」と。実際の所は全く似てないと思いますが：うちの子ハーフだし：じーじはめっちゃ髭油顔だし：。その写真を披露します。皆さんはどう思いますか？

